

街道400年

中山道

散策マップ

四

熊谷宿
▼
深谷宿



物資と商人が集まり 活気あふれる熊谷・

絹や綿織物を商う六斎市が立ち、交通の要所と領の熊谷宿、他国から多数の商人が移住し活気あふりして発展した城下町の深谷宿…。人の交流と商いのいきいきとした息吹が、今も感じられるに違いない。



中山道

中山道 歩けるルート

推奨ルート

※中山道のルートは時代により変わっています。ここでのルートは
※掲載の地図は市町村発行の1/1万を使用（さいたま市1/2万、東

深谷宿

て栄えた忍藩
る自由都市と
が盛んな当時



2 東竹院

熊谷市久下

見事な枝ぶりの迎え木が目印。深谷城主の上杉憲賢が天文14年(1545)にこの地に建立し、墓地には久下郷領主であった久下一族が眠る。



5 高札場の碑

熊谷市本町2丁目

信号の左手に、その昔幕府の法度や掟書、宿場の決まりなどを書いた提示板跡の碑が建つ。当時高さ約3.3m、長さ5m、横2mあった。



6 竹井

熊谷市鎌倉

別名を熊谷戸時代は忍...
わったが、本...
火災と昭和



1 みかりや跡

熊谷市久下

英泉の「熊谷宿 八丁堤ノ景」にも登場した人気の茶屋で、かつて旅人が疲れを癒し、また忍藩藩主が鷹狩の時に休憩所として利用した。



3 一里塚跡地

熊谷市曙町4丁目

元荒川通りから仏説寺、大雷神社を過ぎると右手に曙公園が見えてくる。園内には大きな石碑や祠が建ち、往時の面影を伝える。



4 高城神社

熊谷市宮町2丁目

大里郡の旧総鎮守。石田三成の忍城攻めで類焼しているが、寛永16年(1639)に阿部忠秋が再興。常夜燈や豊富な文化財で名高い。



8

熊谷市

浄土...
に熊...
この...
励ん

見どころ ♀ バス停
名所・旧跡 本町 主要交差点

国道

は江戸時代末期のものをしてあります。
京都1/2500)



本陣跡の碑

本陣跡の碑。熊谷宿は江戸藩領で、六斎市などにぎ本陣は明治17年(1884)の20年(1945)の戦災で焼失。



7 七星溪園

熊谷市鎌倉町
本陣竹井家の別邸として知られる。慶応年間(1865~68)より、当主の竹井澹如(たんじょ)が「玉の池」を中心にした回遊式庭園。

熊谷宿

日本橋からの距離
16里4町40間(約64km)
家数:1075軒
人口:3263人
本陣:2軒
脇本陣:1軒
旅籠屋:19軒



9 秩父道志るべ

熊谷市石原
熊谷市石原北交差点のつ、「秩父34ヶ所観音四万部寺」への道標(1766)に造立されたも



熊谷寺

市仲町
宗の古刹で、元久2年(1205)谷実らが、熊谷館のあった地に草庵を結び念仏修行にだのが始まり。庭園も美しい。



岐阻道中 熊谷宿 八丁堀ノ景
溪斎英泉画。久下村から熊谷宿へ通じる道中の「みかりや茶屋」で憩う旅人を描いた。

中山道まめ知識

五穀豊穡を祈って名付けられた五家宝(ごかぼ)

熊谷銘菓として有名な五家宝は、草加の煎餅や川越の芋菓子と並ぶ埼玉三大銘菓のひとつ。文政年間(1818~30)に始まったといわれる。もち米でつくったおこしの芯に、水飴でこねたきな粉をからませた棒状の甘く香ばしいお菓子。



の左手角に建
音札所一番
。明和3年
のである。



11 おしりょうせきひょう 忍領石標
熊谷市新島
安永9年(1780)、忍城主が他藩との境界争いを避けるため、領地の境界を示そうと建てた石碑。「従是南忍領」の文字が刻まれる。



10 いちりづか 一里塚
熊谷市新島
高さ12m、幹の周囲3.6m、樹齢約300年の大ケヤキがそびえる。かつては道の両側に立っていたが、現在は左側のみが残っている。

..... 中山道まめ知識

**贅を尽くした大伽藍の熊谷寺
開祖・熊谷直実の宝篋印塔も**
熊谷寺は安政元年(1854)に一度焼失、明治に入り再建がなされ、大正4年(1915)によりやく完成した。全てケヤキの赤味材を使用し、関東でも珍しい美しい大伽藍風に造営。また境内には熊谷直実一族の墓とされる宝篋印塔も存在する。

..... 中山道まめ知識

**熊退治が熊谷宿の名の由来
地の利で大いにぎわう**
武州目代・私市直季の孫である直貞が、永治年間(1141~42)に付近を荒らす熊を退治したことから、この名がある。江戸時代には秩父・川越・足利方面へ通じるなど地の利に恵まれ多くの人が行き交い、また六斎市も立ちにぎわった。



熊谷うちわ祭り
 坂神社の例大祭として、7月20日から3日間行われる。12台の山車・屋台が熊谷囃子とともに町中巡行する。

●熊谷市農協第2
 カントリーエレベーター

熊谷市

五街道とは

五街道とは、江戸時代「江戸日本橋」を起点とした「東海道」「中山道」「日光道中」「奥州道中」「甲州道中」の5つの街道です。各街道には宿が置かれ、宿泊施設や旅客、荷物の運搬、通信などのために、人馬が常置されました。国土交通省では、日本の交通において重要な働きをするこの五街道の役割と魅力を再発見し、また道路のもつ役割や変遷などを確認しながら、今後のより豊かな道づくり、まちづくりを、皆様のご協力をもとに進めていきたいと考えています。

(写真は五街道の起点・日本橋に設置された「道路元標」)



中山道とは

江戸時代の中山道は、日本橋から京都・三条大橋までの67宿69次、全長約135里(約530km)。埼玉県では、戸田から本庄の勅使河原まで、蕨や大宮、桶川や熊谷などを経る約19里(約75km)の道程です。



「中山道散策マップ」は、中山道にゆかりのある名所・旧跡や見どころなどを広く紹介し、その魅力をあますところなく伝えようとするものです。地図やカラー写真を満載し、実際のウォーキングが楽しめるように構成しました。400年の時代の流れとともに、古きよき時代の中山道の面影に触れることができるでしょう。



国土交通省大宮国道事務所

〒331-9649 埼玉県さいたま市北区吉野町1-435
 TEL 048(669)1205
 ホームページ <http://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/>

平成15年10月初版
 平成19年3月改訂
 ※浮世絵は埼玉県立博物館所蔵

r2100 この広報誌は再生紙を使用しています。